



ベンチャー支援 今・昔



私は、約10年前の2000年4月から2002年10月までの2年半、現在の創業・経営支援課の前身である産業企画部 新規事業課で、主にベンチャー支援の業務を行っていました。

当時は、いわゆる第3次ベンチャーブームの真っ直中で、2001年に当時の平沼経済産業大臣による「平沼プラン」（大学発ベンチャー1000社創設を目標としたプラン）の発表、新事業創出促進法の法認定による、ストックオプション、優先株特例の創設、中小企業創造活動促進法の改正によるエンゼル税制の創設等、ベンチャー企業を取り巻く環境が整備され、官民あげてのベンチャー創出、支援の機運が盛り上がっていました。

支援の相談に来られるベンチャー企業の方も、皆さん、日本のマイクロソフトを目指し、日本のビル・ゲイツたらんとする熱気と気迫と夢に満ちていました。

それから、約10年後、現在のベンチャー支援の担当課である産業部 創業・経営支援課に着任して感じたことは、かつてのベンチャーブームは下火となり、ベンチャーという言葉聞く機会が少なくなった、ということです。

この原因は、文献等を調べてみると、2000年初頭のアメリカのITバブルの崩壊、ライブドア事件、村上ファンド事件を端緒としたベンチャー企業に対する逆風、さらに最近のリーマンショックによる世界的不況等にあるようです。

21年度に近畿経済産業局が実施した「これからのベンチャー投資活性化に関する調査」によれば、ベンチャーキャピタルのベンチャー企業向け投資金額は2006年の2,774億円から、2008年には1,294億円と半減しており、こうしたキャピタルの投資額の減少、さらに金融危機により資金調達が難しくなっていること等により、IPO社数は2006年の188社から2009年には約10分の1の19社に激減しています。

もともと、IPOを目指す成長指向性がベンチャー企業の特質の一つとされることから、これらのデータは、現在のベンチャー企業を取り巻く環境の厳しさを表していると思います。

ベンチャー関係者の中には「現在ではベンチャーという言葉は死語になっている。」と言われる方もおられるくらいです。

しかしながら、10年前、そして現在ベンチャー支援に携わっている私としては、ベンチャー企業の持つ、アントレプレナー精神により新たな市場を開拓し、経済を活性化させ、雇用を創出するという役割は、現在の不況下こそ必要とされていると考えます。

今年6月18日に新政権により閣議決定された「新成長戦略」においても「科学・技術力を核とするベンチャー創出や産学連携など、大学・研究機関における研究成果を地域の活性化につなげる取組を進める。」と明記されています。

今まで以上の強力なベンチャー支援策の構築が喫緊の課題であると考えますが、ベンチャーブーム最盛期の10年前の支援のやり方が、そのまま現在に適用できるとは思いません。

現在の穏やかな経済成長に合ったベンチャー支援のやり方があるはずだと。

現代におけるベンチャー支援のあり方について、VECの会員の皆様とも一緒に考えながら取り組んでまいりたいと思います。

どうか、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



近畿経済産業局 産業部
創業・経営支援課長 玉野 直毅

～産学連携に携わる機会を得て～

- 私は、本年4月から国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学に縁あってフルタイムのコーディネーターとして働いております。3月までは、大和SMBCキャピタル（7月より大和企業投資、SMBCベンチャーキャピタルの2社にわかれて再出発）というベンチャーキャピタルでベンチャー投資に携わってきました。
- 入社した時は90年代バブル後の信用不安の真ただ中でしたが、その後のITバブル、バイオベンチャー、MBOなどその時々時代のテーマの変遷に応じたエクイティファイナンスのダイナミズム、そしてIPOバブルとその凋落を経験することができました。その間にベンチャーキャピタルも世の中に知られるようになりました。
- そのような中、大学に職を得たのは本当に偶然です。深い考えがあったわけではありません。ただ、奈良先端発ベンチャーの支援をするというミッション惹かれました。VCはここ数年どん底の経営環境で私自身も特にここ2年は後ろ向きに仕事の比重が高かったのも背景にはあり、大学ではもっと素直な思いでベンチャーに関われるのではないかと思ったのです。
- しかし、ベンチャー支援の常勤コーディネーターは私一人なので何をどうしようか悩んで体が動いていないのが現状です。学内の起業・事業への思いを持った人達とどうミートするのかという基本的なところから始めなければなりません。

よく考えるとこれまで全くクリエイティブな仕事をしてこず、会社組織に甘えてきたことがここにきて随分崇っているなあというのが実感です。

- とは言え、4月以降、奈良先端大発ベンチャーのフィット、クレンジングテクノロジー、ホープフル・モンスターの3社と親交をもつことができました。本学情報系の出身者、現役学生が興したIT、サービスモデル系ベンチャーです。とても若くてパワフルでそしてサービスも技術も先進的です。世間的には大学発ベンチャーというくくりになるのですが、そういう言い方はあまり好きではありません。大学の名をもつのは、スタートアップ時にはとても有益ですが、3社ともすでに実態のある事業を行っていて大学発ベンチャーという括りからは卒業して事業の拡大を目指している段階だと思います。
- 私も事業を真剣に興したい人と関わりたいと言うところは前職時代とかわりません。たまたま幸運にも大学に基盤を置くことになりましたが、本学にも“思い”をもった学生、教員の方を応援したいと思っています。安易な起業をすすめるという意味ではありません、念のため。
- 以上、勝手なことを書きました。まだまだ産学連携の仕事は駆け出しです。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を頂ければ幸いです。

奈良先端科学技術大学院大学・産官学連携推進本部
文部科学省産学官連携コーディネーター 酒木 間多

縁ありて花ひらく

シリコンバレーに駐在していたころから多くのベンチャー企業の創業者にお会いしたが、彼らが一様に述べておられるのは創業にまつわる「人との出会い」である。「偶然にあの時あの方にお会いし、それが機縁になって会社が創業できた。ピンチの時にあの方の一言に助けられた。」などご縁の有難さであった。私自身の人生を振り返っても、もしあの方に助けられなかったと思うとぞっとすることがある。現にVECと関係をもてたのも竹馬の友である大江雄治さん（元りそなキャピタル常務）のご縁による。

さてこの縁とはどのようなものであろうか？

縁とは計らわずして頂戴し、それをお互いに深めてゆき、それを紡いでゆき、最後に織物の曼荼羅図のように鮮やかに紡いでゆくものと思う。この不思議な縁を説明する考え方には、欧米では複雑系の理論がある。そこでは①志をもったエージェントが適切な場のもとで周りに働きかけて、②身近な縁をネットワーク化して（自己組織化）新しい価値を生み出すことができると説明している。これはご縁を広めたり、深めたりして自然発生的に形成されたシリコンバレー成立の過程などをよく説明している。

さらにこのご縁が能動的な生命体のように活発に活動できる安定した状態が「カオスの縁」といっている。この状態は「秩序ある世界」とカオス（無秩序）の中間で、カオス（無秩序）では縁が繋がらず、そうかといって余りにもオーガナイズ（秩序ある世界）されていると、新たな出会いがない。縁とはうまくいけばどんどん発展するが、一方で壊れやすく、際どく安定している状態のことを説明している。

欧米では縁という言葉がなく、日本人がその歴史文化的に醸成した概念であるが、日本人が縁を考える背景には仏教の影響があると思う。

因縁生起説では、直接的原因（因）と間接的原因（縁）が揃って結果をもたらすと考えている。例えば種を蒔き（因）、水をやれば（縁）、植物は育つ（果）ことで原因がなければ結果が生まれない、すなわち善因善果、悪因悪果という縁ありて花ひらくことを説明している。

同様に仏教の縁議論では、我々は、「自分というのは、両親や先祖のつながりにより今があり、現在生活できるのは過去だけでなく、現在目に見えない多くの方々に支えられ生きていく」と考えてきた。人というのは、縦横無尽のつながり（ご縁）の中で生かされていると殆どの日本人は暗黙の認識があり、「縁ありて花ひらく」ことをなんとなく理解していると思う。この感性は外国人には見られないもので日本人のトレードシクレット（企業秘密）といってもよい。

釣島平三郎

『アメリカ初の国立公園、イエローストーン』

昨年辺りからメディアでもその名前を良く見かけるようになりましたが、日本での知名度はまだそう高くない「イエローストーン国立公園」。アメリカで初めて国立公園に認定された世界遺産です。モンタナからワイオミングに広がる四国の半分にもおよぶ広大なこの公園が注目される大きな理由は2つ。



ひとつは周りをロッキー山脈に囲まれ、特有の生態系を作り出していること。緑豊かな森からツンドラ、砂漠へと変化する様子を目の当たりにし、そこに生きるさまざまな野生動物たちと至近距離で遭遇することができます。地面に身体をこすりつけ砂煙を上げて自分を誇示するバイソンや、立派な角を持ち悠然と草をはむエルク、山を登っていくビッグ・ホーン・シープの群れや高い木の上から周りを見渡す白頭ワシ。そして、熊にオオカミ、コヨーテなどなど。その迫力は言葉では言い表せません。

そして2つめはこの公園自体が大きな活火山であること。

地下の巨大なマグマだまりが地上に吹き出す間欠泉は世界的にも圧倒的な数と規模を誇ります。また、巨大な石灰山や美しい色を発するバクテリアの池など、独特な地質が生み出す造形美はこの公園特有のものです。

さて、このイエローストーンを訪れるにはどうすればよいか？大手旅行会社がたくさん周遊の観光ツアーを出していますが、見所やペースというのは人それぞれ、当社はイエローストーンは個人手配

で行くべきだと考えております。でもご心配は要りません。空港到着から出発まで現地のエキスパートガイドが完璧なエスコートをいたします。大型バスで移動する観光ツアーでは決して体験することの出来ない大自然の旅を必ずお約束します！詳しくは、<http://www2.odn.ne.jp/asttravel/nationalpark/nationalpark.htm> をご覧ください。詳しい資料を下記までご請求ください。

お問合せ先：アストラベルサービス（株）担当 大竹 智子
TEL 06-6947-7190 メール as-travel@pop16.odn.ne.jp

<シリーズ>



～おもしろい“色”のおはなし～

～初対面で好印象のイメージカラーは??～

日常我々の周囲には様々な色の中で囲まれており普段は何も気にとめていませんが衣・食・住に関しても色がない世界なんて考えられません。

私たち人間には感情がありますね。ですから個々の喜怒哀楽の感情表現があるように色の世界も同様で嬉しい時にはこんな色の気持ち、悲しい時にはこんな色気持ち・・・と人それぞれ違った色が出現してきます。

ですから、色彩心理とはその色が人間の心理・健康にどのような働き・効用があるのか解明研究がされ各々の専門分野でも活用されています。

さて、今回はビジネスシーンなどで皆さんも様々な場所で色々な方とお会いすることも多いと思います。そこで初対面で相手に好印象のイメージをあたえる色は?・・・とイメージして下さい。お互い良い印象を残したいと思うことは誰でも共通した気持ちです。

色彩心理学の見地から暖色系(赤・橙・黄)が良いとされ、特に私のオススメは明るく若々しいイメージである黄色です。

黄色は「コミュニケーションカラー」と称され相手と自分の距離感を縮めてくれ温かく何かこの人と接してみたいという感情がわくイメージがあります。特にビジネスで営業の方など初めての企業訪問される時はスーツのネクタイ等を黄色をベースにされるのも一つの案かもしれません。

これから「色」が持つパワーで色々な分野が今以上に新しい道を開けるようにと願うばかりです。

参考文献：「色の心理」なるほど辞典
VEC 関西支部 濱本 妙子

—VEC理事長 異動のお知らせ—

8月に松村博史理事長が退任され、新しい理事長に市川隆治氏が就任されました。ご両名のさらなるご活躍をお祈り申し上げますと共に引続きご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

～VEC関西より～

◆VEC関西のお世話役、色彩心理カウンセラー・濱本さんのご意見によりますとベンチャーのカラーは「黄色」とか・・・。将来VECの旅行もイエローストーンとしましょうか。そう言われれば私のネクタイも黄色系が多いかな？ (本田)

♥先日、南海・堺東にある「中国新疆ウイグル料理」のお店へ行きました。ウイグル自治区といえば西遊記にでてくる火焰山が観光地として有名で、やはりメニューは羊肉がメイン。その中でも「シンカワブ(ラム肉の串焼き)」がオススメ。又日本ではここでしか飲めない「桜蘭」というサッパリ系ワインなどなど、西日本ではたった一軒しかないこのお店でのウイグル人の食文化は想像以上に深かったです。(濱本)

◆新しくご就任されました玉野創業・経営支援課長からベンチャー支援についてのご寄稿を賜りました。タイミングよく酒本コーディネーターからも産学連携の状況についてメッセージをいただき、VEC関西支部はさらに充実して行かねば・・・と考えます。(澤村)

◆<交流会>

10月5日(火) 本田工業株式会社 代表取締役社長
VEC関西支部 理事・支部長 本田 英行 氏
10月26日(火) 近畿経済産業局 産業部 創業・経営支援課長
玉野 直毅 氏



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！